

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	雪荷重・対雪設計小委員会		主 査 名：高橋 徹 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：緑川光正 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2014 年度に改定予定の建築物荷重指針のうち、雪荷重に関する部分について検討を行い、執筆作業を行うと共に、広く雪問題に対応した設計のあり方を検討して荷重指針第 2 編として刊行し、支部共催事業である講習会の開催に寄与すると共に、正しい雪対応策を社会に広めることを目的とする。</p> <p>初年度：建築物荷重指針改定のための資料収集、改定稿の執筆 2 年度：建築物荷重指針 2014 の発刊と同講習会への貢献、 建築物荷重指針を活かす設計資料 1 の執筆 3 年度：建築物荷重指針を活かす設計資料 1 の査読対応と修正、講習会対応、 雪害事例の収集 4 年度：雪害事例の分析と次期改定への課題把握</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：高橋 徹 (千葉大学) 幹事：堤 拓哉 (北方建築総合研究所) 千葉隆弘 (北海道科学大学) 委員：和泉正哲 (大崎総合研究所) 大塚清敏 (大林組) 小坂橋裕一 (日建設) 小竹達也 (日本建設業連合会) 桜井修次 (北海学園大学) 苫米地司 (北海道科学大学) 富永禎秀 (新潟工科大学) 中島 肇 (清水建設) 前田博司 (福井工業大学) 三橋博三 (-)		
設置 WG (WG 名：目的)	対雪設計技術 WG： ・設計実務者を中心に構成し、雪荷重による建物被害の要因分析と対策方法について小委員会と一体となって議論を行う。		
2014 年度予算	230,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s25/	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 建築物荷重指針・同解説 (荷重運営委員会傘下 7 小委員会で共同)
講習会	1. 2014 年度日本建築学会支部共催事業「建築物荷重指針」改定講習会 (荷重運営委員会傘下 7 小委員会で共同) 参加者数 1,114 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 2015 年寒候期も、各地で降雨を含む雪荷重による屋根の崩落が相次いでいる。引き続き情報収集に努め、対雪設計につなげたい。</p> <p>2. 「建築物荷重指針・同解説」は予定通り刊行され、今年度内に講習会を開催するところまで漕ぎ着けた。</p> <p>3. 「荷重指針を活かす設計資料集 1」を脱稿し、荷重運営委員会査読中である。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	委員会の性格上地方在住者が多く、規定どおりの旅費を支給すると委員会開催 1 回で予算を使い切ってしまうため、出席者の偏りがみられ始めている。遠慮なく参加してもらえるように配慮したい。